

目次	1	着任ご挨拶 [鈴木 寛]
	2	三井不動産寄付講座 ERES 公開セミナー 2014 [辻田昌弘] / 大学院講義レポート [西嶋裕史]
	3	学生インタビュー [松縄 暢さん]
	4	Chronicles of a 'Ryugakusei' [Aswathi John] / トピックス

着任ご挨拶

教授 鈴木 寛 (元文部科学副大臣)

本年2月より、東京大学公共政策大学院 (GraSPP) 教授に就任いたしました鈴木寛です。どうぞよろしくお願いいたします。GraSPPとは様々なご縁がありました。まず約10年前、公共政策大学院や法科大学院など専門職大学院を高等教育体系に位置づける学校教育法改正の際には、参議院文教科科学委員会理事として審議を取り仕切りました。また、GraSPP設立に法学部長として御尽力されました菅野和夫先生は私の大学時代のゼミの恩師であられ、GraSPP設立を巡るご苦労話などもずっと伺っておりました。さらに、私が文部科学副大臣時代に打ち上げたキャンパスアジア構想、リーディング大学院構想などは、本大学院が中心となって具現化していただいています。このように、大変ご縁の深かった本大学院に教授として着任いたしましたのは大変光栄なこと、多くの関係者の皆様に感謝しています。新任教授として抱負を若干述べさせていただきます。

第一は、本物のグローバル・リーダーの養成です。リーダーとは、板ばさみや困難から逃げない人だと思います。混沌から多様な調和を作り出していける人だと思います。今、時代は大いなる変革期・曲がり角にあります。課題先進国である日本で、様々な火種を抱えるアジアの困難から逃げることなく、正面から向かっていける人材を育成していくことが、グローバルに通用する真のリーダーの育成に直結すると思います。そのためには、政策立案能力もさることながら、確たる歴史観、哲学をもち、困難に向かうすべを心得た人材を育成していきたいと思います。特に、近代国民国家システムが抱える揺らぎやグローバル資本主義の危うさなど、深部まで理解していきながら、次なる時代を構想していきたいと思います。

第二は、政策シンクネットづくりです。かつての霞が関は、日本をジャパン・アズ・ナンバーワンに導いた卓越したシンクタンクでしたが、今や、日本全体を見渡し、歴史的位置づけを理解し、国家戦略や産業や社会のビジョンを構築する組織や場がなくなってしまいました。それが日本の混迷や先行き不安の増幅につながっています。そこで、世の中に開かれた大学が複数連携して、政策・戦略構築のためのオープンな場と機会をつくっていく政策シンクネット構想を進めていきたいと思っています。そこでは、アカデミアはもちろん、職種・業種・国境を越えて、政策実務、実業、メディアなどの現場で奮闘する人材が集い、様々な情報や知恵を持ち寄り、熟議を重ね、新たな英知の創造・発信・普及を活発におこなっていきます。

第三は、世界の公共政策大学院のなかで GraSPP が一目おかれる存在になることです。私も、早々に、シンガポール国立大学、UCサンディエゴなどと交流を始めましたが、GraSPP はすでに世界中の公共政策大学院と素晴らしいネットワークを築いています。世界中の公共政策大学院と協働して、ビジネスや政府だけではなくなかなか進展しない人類・世界の難題に、様々な知的・人的資源を結集して、問題解決に向かっていくグローバルな大学ネットワークを構築していきます。

いずれも私一人ではできません。教員・学生のみなさんとのコラボレーションをよろしくお願いいたします。

三井不動産寄付講座 ERES 公開セミナー 2014

『都市のコンパクト化と公的不動産の活用～人口・都市機能の集約化に向けて～』

辻田昌弘 特任教授

2014年6月30日、伊藤謝恩ホールにて表記セミナーが開催されました。本セミナーは寄付講座「不動産証券化の明日を拓く(三井不動産)」の研究・交流活動の一環として実施されたもので、当日は行政(国・地方自治体)、建設、不動産、コンサルタント、金融、シンクタンク、大学など多方面から総勢300名を超える方々にご参集いただきました。

少子高齢化と人口減少が進む我が国において、これまでの人口増加を前提とした拡散・膨張型のまちづくりから、高齢者を含めた多くの人が歩いて暮らせるような都市機能集約型のまちづくりー「コンパクトシティ」ーへと、都市のあり方、まちづくりの方向性はいま大きな転換点を迎えています。しかし、一口に「コンパクトシティ」を目指すといっても、その実現に向けては解決すべきさまざまな課題が山積しています。

そこで、本セミナーでは、コンパクトシティの先進自治体として全国的に有名な富山県富山市の都市整備部長・京田憲明氏より『公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり』という演題で、同市のまちづくりへの取り組みについて、次いで国土交通省都市局都市計画課長補佐の宮沢正知氏より『まちづくりと公的不動産～改正都市再生法とPRE有効活用ガイドライン』という演題で、

自治体によるコンパクトなまちづくりを支援する同省の政策についてご説明をいただきました。

本セミナーでの議論が、人口減少時代における持続可能な都市経営のあり方について、ご参集いただいた皆様の理解の一助となれば幸いです。

なお、当日の講演記録や配布資料につきましては、ERESホームページ <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/ERES/> にて順次公開していく予定ですので、ぜひご参照ください。



宮沢正知氏



京田憲明氏

大学院 講義 レポート

第12回

西嶋裕史

MPP/IP 2年

【講義科目】「国際交通政策」

【担当教員】 宿利正史 客員教授
林 泰三 特任教授
大橋 弘 教授



伊丹空港、関西国際空港視察のひとこま

6月3日第5限。私はいつもの第二本部棟ではなく、関西国際空港の会議室にいた——今回ご紹介する「国際交通政策」は、官民学各界の“国際交通分野のプロ”を毎回講師にお招きするオムニバス形式で、航空・鉄道を中心とした日本の国際交通分野の抱える政策課題やその背景要因について学ぶ講義ですが、3つの点でとても魅力的な科目です。

・豪華な講師陣とインタラクション

JR東日本社長、観光庁長官、国土交通省幹部等、普段ならお会いできない方々から直接レクチャーが受けられます。またクラスも20名程度と小規模で、毎回必ずディスカッションの時間が設けられるので、直接質問したり自分の意見をぶつけたりできます。

・様々な学びのスタイル

講義形式だけでなく、多様な学びのスタイルが用意されていることも大きな特徴です。冒頭で言及したように、空港の経営改革を学ぶ際には、関西国際空港と伊丹空港を視察し、LCC向けターミナル、貨物ハブ空港等、新関西国際空港株式会社による空港事業の価値を高める取り組みについて現場レベルで理解を深め、同社執行役員の山口勝弘氏とも熱い議論を交わしました。また、オープンスカイの分野では、イギリスと日本の実例をもとに、両国政府と航空会社に分かれて二国間模擬交渉を行いました。

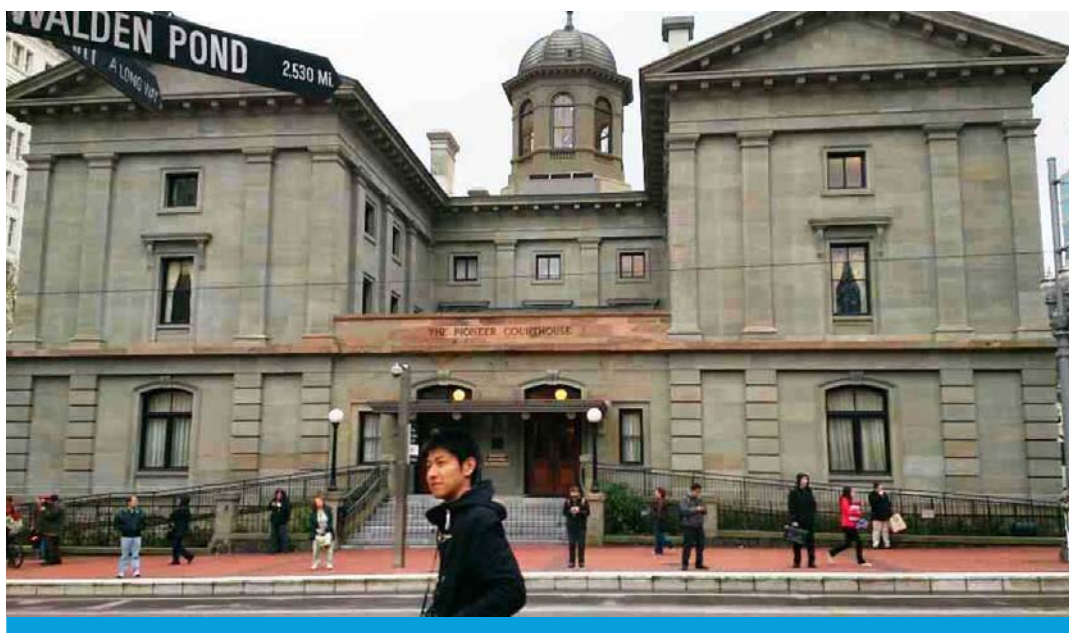
・多角的な視点での議論

他研究科からの受講生も多く、受講生のバックグラウンドが多様で、多角的な視点から問題を考える力を身に着けることができます。

辞書によると「交通」とは人や物が行き来することだそうです。この科目はまさに交通というテーマについて、多様な人や考え方が交わる学びの場であると思います。交通分野に関する事前知識の有無を問わず、おすすめできる講義だと確信しています。

学生インタビュー

第18回



松縄 暢さん
経済政策コース1年

Student Interview

— もともとは建築畑だそうですね

早稲田大学創造理工学部建築学科出身です。教養課程がなかったので4年間建築漬けでした。中学2年のとき、アメリカ・ミシガン州の小さな町に2週間ホームステイしたのですが、その往復の飛行機で、空から眺めた景色が日本とアメリカでまったく違うのが強烈に印象に残りました。旅行に行った先々で街の顔が違うのも面白かった。そんなこんなで、都市計画を建築面から学ぼうと思い、建築学科を選びました。ただ、建築を生業にするかといえば、多くの人の役に立ちたいという点から考えると、難しいかもしれないと思っています。私見ですが、建築には自分が満足するためにかっこいいものをつくるという自己実現の側面が多分にあると思うんです。

そこで、都市計画を制度面などのよりマクロな視点からも勉強したいと思い、GraSPPを選びました。実は4つ違いの兄(裕志さん)もGraSPPの修了生です。

週に1回ほど、街歩きしながら建築物を見るのが好きです。早稲田の建築はデザイン重視だったので、建物を見ると、ついデザインに目がいきます。旅行の目的ももっぱら建築物です。本郷周辺で気に入っているのが、丹下健三が設計した東京カテドラル聖マリア大聖堂です。コンクリートの壁面とそれを這うようにして注ぐ光が美しいんです。特にデザインに凝った現代建築は見ていて楽しいです。今住んでいるところのそばの千駄木で、谷口吉郎が設計した森鷗外記念館を見つけたときは興奮しました。この建物がある谷根千は、都会でもないけど田舎でもない、まさに「下町」で、これは新潟にはないものだと感じています。



左 兄の裕志さん、右 暢さん

実は谷中とは学部時代から縁がありまして。卒業設計課題で仲間2人と新たな日暮里駅舎の提案を行い、第2位になりました。日暮里駅は乗換駅という特性が強く、実際に日暮里の地域に降り立つ人は1割に満たないこと、駅を境に行政区が異なるということもあり、乗換客にどのように駅の外に出てもらって分断された地域の活性化につなげるかがテーマでした。この卒業計画に取り組んでみて、建築が社会にどう波及していくかを考えると、建築以外のことも知る必要があると強く感じました。

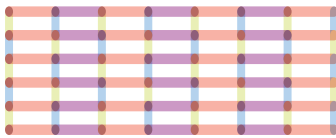
— 授業が始まって2ヶ月あまり、経済政策コースでの日々はいかがですか？

必修が多くて忙しいです。畑違いなので苦労もしています。入学試験のために経済の勉強を始めたので、学部時代から経済を学んでいた仲間に遅れを取って大変です。この前期でマクロ経済、ミクロ経済、計量経済学を一举に終えれば、来期からずいぶん楽になるんですが、週9コマ英語の授業なので予習復習もアップアップで、テストに賭けています(笑)。負けず嫌いなので、周りに負けたくありません。

経済産業省のインターンも始まります。授業で扱っているような課題を、インターン先でも学生どうしのグループワークとして取り組み、提言としてまとめるという作業になるかと思います。そこにメンターとして省職員の方がついてくださるとのことです。

今のところ就職先はシンクタンクやコンサルティング会社も考えています。そこで経験を積んでできるだけ成長し、得たものを故郷の新潟に還元したいと思っています。将来的には新潟に戻るつもりです。建築が好きなので、建築と経済が融合した仕事に就ければ、と考えています。

(インタビュー・文責 編集担当)



Chronicles of a 'Ryugakusei'

Aswathi John MPP/IP 1st Year



When the China Airlines carrier in which I was flying finally landed at Narita, I disembarked with a bag of mixed feelings not knowing what to expect in the ensuing days. I met my tutor on the second day of arrival and got to know about some basics on 'life in Tokyo' which definitely eased my nerves. During initial exploration of the city, it appeared to me that, unlike in India, where human interaction is the order of everyday life, you could possibly get by a day in Tokyo sans such communication! Nonetheless the city was cordial and considerate, from streets (where people around you are always willing to spare a cue, if you are in need of any help) to shops (where shop assistants would welcome you with a greeting of "irashaimase"). I remember having felt that "Tokyo is manageable", when I successfully waded my way through the crowded metro and streets to the GraSPP building to join my cohort for the summer intensive course.

Settling down in the city, both physically and emotionally, was made easier by the affable ambience at GraSPP and gracious nature of the city itself. Tokyo enchants everyone who comes to find a shelter under its wings. In spite of being the epicentre of technology and fashion in Asia, historical conventions and customs still flavour the city ethos and I was amazed to experience this fine blend of sophistication and tradition around me. As I'm nearing completion of my first year in the city and at GraSPP, I have come to greatly appreciate what I have experienced and learned both inside and outside classrooms. Excitement of living in this unique city, pride of being a Todai student and keenness of pursuing the subject of my interest bolster my spirits to push the envelope each day.

On academic front, timeliness and appropriateness of pursuing policy management studies has never been more evident to me. Given the backdrop of global economic recoupment and persisting challenges toward attaining MDGs (Millennium Development Goals), deep understanding and analysis of policy issues has become more critical and relevant. Multi-disciplinary and practise-oriented approach at GraSPP effectively caters to this requirement. Since most of our professors are eminent practitioners in their relevant fields, lessons drawn from the repository of their experience add further value to the curriculum. GraSPP also provides opportunities to comprehend governance framework and policies in Japan which helps international students to draw lessons in comparison to their home countries.

GraSPP is truly a potpourri of cultures as there are students from all continents of the world. On personal note, getting first hand exposure to different cultures and cuisines has been a really exciting ingredient of the journey here. By being a part of this multicultural microcosm, one learns to expand her/his sensibilities and emotions beyond shackles of territorial borders and evolve into a global citizen. I hope that as potential future policy makers, each one of us would be able to act as bridges across societies and nations and would be instrumental in materialising effective policy solutions for the betterment of collective.

TOPICS トピックス

5月前半、IMF-JISPA奨学生を対象とした研修旅行 IMF Academic Tripで、12名の学生が広島を訪れました。瀬戸内の爽やかな気候に恵まれ、原爆ドーム(世界文化遺産)、広島平和記念資料館、マツダミュージアムを見学しました。宮島では、世界文化遺産である厳島神社を訪れたほか、もみじ饅頭手焼き体験にも参加しました。全員がエプロン姿でもみじ饅頭づくりにチャレンジ、自分でつくった熱々の出来たてをほおばりました。



今回インタビューした松縄さんは、お兄さんもGraSPPの学生でした。兄弟でGraSPPに在籍という初めての例かもしれません。GraSPPも設立10年になりますが、こういう出来事が積み重なって歴史になっていくんだな、としみじみ思いました。「親がGraSPPで学んでいました」という学生も遠からず登場することでしょう。(編集担当)

NEWSLETTER [編集・発行] 東京大学公共政策大学院
第37号
GRADUATE SCHOOL OF PUBLIC POLICY
THE UNIVERSITY OF TOKYO

[発行日] 2014年7月29日

[デザイン] 安孫子正浩(水蒸気図案室)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 tel 03-5841-1710 fax 03-5841-7877

E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp>